

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1191800182		
法人名	ケアサポート株式会社		
事業所名	グループホームケアサポートそうか瀬崎		
所在地	埼玉県草加市瀬崎2-46-15		
自己評価作成日	令和5年5月1日	評価結果市町村受理日	令和5年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設当初からご入居している方、最近ご入居された方等それぞれのご入居者様の状態から今出来る事を皆で考え、行って頂けるよう検討、実施しております。
 ご自身で食事が摂れない日がある状況であっても、初めから職員が介助するのではなく、ご自身で召し上がる事が出来るよう食器や配置、声掛け等、厨房とも連携を取り対応しております。
 入居をされたばかりで不安な日々を過ごされている方へは、先ず職員がたくさん話しかけ、笑顔を引き出し、入居者様同士の橋渡しをし、快適な居場所として認識して頂けるよう努めております。
 地域への取り組みにも積極的に参加し（現在は職員のみ）、地域の一人として皆様が笑顔で生活が出来るよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- ・コロナ禍の中で、「いかにして入居者に楽しんでいただけるか」を職員全員で考え、移動販売車を取り入れ、生ものや好きな物を買うことができ、入居者・家族からも好評を得られている。また、日常のケア面では、開所当時からおられる方と入居間もない方への違いを職員が認識し、話しかけの仕方や入居者同士の橋渡しに様々な工夫が図られている。
- ・毎月発行される「グループホーム新聞」には、入居者の普段の様子が盛り込まれ、家族とのコミュニケーション作り役に役立ち、家族からも「毎月楽しみです」との評価が得られている。
- ・運営推進会議については、集合での開催が再開され、参加者から地域の情報を取り入れたり、日常的な入居者への支援、楽しんでいただくことなどが話し合われ、事業所運営に反映されている。
- ・目標達成計画については、令和3年度を通して入居者の思いや意向をいかにして把握し、ケアに結びつけるかなどには特に力を入れて取り組まれ、成果が伺える。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	「その人らしく、ゆったり、のびのびと…」という理念を掲げ、ケアプラン作成やGH会議の際に、個々のニーズを把握し、より良いサービスが提供できるように努めている。計画書はご本人様の状況に応じて変更している。	「職員は入居者の家族の一員」との意識を持ち、新旧入居者の橋渡しをされ、楽しい会話に心がけられている。その人らしい生活リズムで、のんびり過ごしていただけるよう日々「お手伝い」することで、理念に沿ったケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で外部との交流が出来なくなったが、今出来る事を検討した。地域を回っている訪問販売や就労支援事業所を活用 時間はかかるが販売員の方にも協力いただき好きな物を購入できる機会を設けた。	日常的には散歩時の挨拶が行われている。職員や運営推進会議メンバーから地域情報を得て、移動販売車を取り入れ、更に講師を招いてキーホルダーづくりを行い、手作りのものを地域の認知症サポーターにプレゼントをするなど交流されている。	これまで取り組まれていた様々な地域ボランティアの受け入れの復活などに取り組まれ、職員や事業所の活性化に繋がれることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方へ、施設を見学していただくとともに、情報を提供している。 地域の交流会への参加やイベントでの講師等の協力をした 他事業所との連携や情報交換も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご本人様、ご家族様へ情報を開示サービスに反映できるよう取り組んでいた。 コロナ禍で中止となっていたが、再開している	地域包括支援センター職員、民生委員等の参加を得て、定期的な開催が再開されている。参加者からは地域資源や入居者が在宅で暮らしていた頃の話など、日常的な話題や地域とのつながりが聴き取られ、運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH交流会への参加をお願いしていたが、コロナ禍にて中止。認知症サポーターのキーホルダー作りの協力 事故やコロナ発生時には状況の報告を行った。	感染防止対策での備品の配付や介護保険の運用などについて連携が図られている。また、市の認知症サポーターの方に手作りのキーホルダーをプレゼントし、周囲からの理解を深めていただく機会とされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会、年2回の研修を開催し、職員で共通した意識を持って身体拘束をしないための取り組みを話し合っている。安全上実施する場合にはご家族様に相談しながらケアに取り組んでいる。玄関は施錠となっている	身体拘束廃止委員会の定期的開催や、職員研修も随時実施されている。特に日頃のケアの中で「ちょっと待って」ではなく、「後〇〇分待ってね」と伝え、安心していただくよう努められ、更に動画などを観て自分の行動の振り返りもなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のGH会議にて、虐待防止に対する取り組みの意見交換や情報の共有を行なっている。身体拘束委員会と一体として虐待防止委員会、研修も実施。又、本社の勉強会や研修に参加した職員より、他の職員へ情報を発信している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の権利擁護等の勉強会に参加できる機会を活用。 以前成年後見の方がいたため、関係者との連携等は共有していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結及び変更がある際は、ご家族様と話す場を設け、内容を説明するとともに不明な点が解消できるように努めている。入居後も、随時不明点や確認の希望に合わせ、説明を行い、理解・不明な点が解消できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所の際に、コミュニケーションを図れる機会を作り、ご要望を聞き取れるようにしている。また、年に1度CS調査を行い、サービス満足度が向上できるよう努めている。	「家に帰りたい」、「海鮮丼が食べたい」などの入居者からの申し出には、一緒に散歩をして気分転換を図ったり、メニューを増やすなどの対応がなされている。家族からは感謝の意見が多く、「白髪染めをしたい」などの要望にも応えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員と話し合う、意見を聞く、会議に参加するなど、職員とのコミュニケーションを図れるよう努めている	管理者と職員での話し合いも行われ、日頃から意見は言い易い環境にあり、入居者個々の健康に関することや、イベント企画なども自由に提案されている。特に誕生日や夏祭り、クリスマスなどの企画は職員に任せられ、意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握しながら、勤務表を作成している。 また、職員の経験や実績に合わせレベルアップできるような本社研修の参加などの環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を実施し、職員のレベルアップを図っている。 また、外部、内部の研修があれば、その情報を提供し、希望職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他拠点の職員と連携を取り、日々の業務の相談ができる体制を作るとともに、他拠点の見学をするなど交流できる機会を作っている。地域ケア会議等に参加しコミュニケーションの中から情報の共有を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の困りごとや不安はしっかりと聞き取り、初回のケアプラン、アセスメントで共有をし、ご本人が安心できる環境を整えられるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いはしっかりと行い、出来る事、難しい事は説明をしながら小まめに報告をし、声を聴きながら信頼関係が構築できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと話を聞き、ニーズから出来る事を検討している。必要であれば他のサービスの提案をする事もある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他入居者様と交流する場を設け、共同生活者として生活していただけるよう配慮している。また、家事などお手伝いしていただけることは実施していただき、残存機能の維持・向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態は常にご家族にお伝えしながら、必要であれば面会する事をお願いし、現在のご本人の状況をご家族と共有しながらご本人の生活が作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との馴染みのある方々へ連絡が取れるように心掛けている。また、面会できる場や状況により外出できる機会を設け、これまでの関係が途切れないよう努めている。	感染防止対策をしたうえで、面会室での面会が再開され、家族や友人と会われ、旧交を温められている。昔の歌を聴いたり、墓参り、習い事、家族の葬儀に参列するなど、馴染みの関係が継続されるよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の人間関係に配慮しながら、他者と交流できる場を提供している。また、居室で過ごすことを好まれる方に関して、お声かけし、溶け込みやすい場を設けるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際には、ご家族の事でも相談できる旨を伝え、何かあった時に気軽に声をかけていただけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される際に、ご本人様の生活しやすい環境を確認するよう努めている。 日々生活の中で、ご要望に合わせてこれまでの生活習慣を継続できるように努めている。	散歩時に入居者から花の名前を教えてもらったり、入浴時に1対1で思いや意向が聴き取られている。アセスメントシートや面会時の家族からも聴き取り、日常会話で何度も出てきた話については職員間で情報の共有が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご本人様の生活歴をできる限り把握しケアに活かせるよう努めている。 また、その都度記録・職員で共有しながら現状把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の体調管理の為、定期的にバイタル測定を行うとともに、医療機関と連携を取りながら体調を把握している。また、その対応を記録し、医療機関・ご家族様と情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様のご要望を把握し、担当職員を中心とし、対応職員に意見を聞きながらケアプランを作成している。 状況の変化に応じて、プランの変更を行っている。	担当職員のモニタリングや課題分析をもとに、入居者本人の思いや要望をよく聴き取り、家族にも意見や要望をお聴きし、個別の介護計画が作成されている。状況の変化に応じて見直しも行われ、常に職員間での情報共有もなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し、会議等で話し合いの場を設けている。それをもとにモニタリングを行い、ケアプランの作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の業務優先でなく、ご入居者様のことを優先的に考えるよう努め、その都度出てくるニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を探し、把握し、来訪や外出の機会を設けて、ご本人様が社会参加できるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様の意向を確認しながら、その方にあった医療が受けられるよう配慮している。定期的な往診と必要時にはご家族様へ相談し、医療機関への相談・通院等必要な支援が受けられる環境作りに努めている。	希望に沿い、かかりつけ医への受診や協力医による往診支援が行われ、協力医とは24時間対応されている。受診後は往診も含めて、職員や同行の家族から医師の指示や所見を聴いて「診療報告書」にまとめ、現場への周知が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人様の健康状態を把握し情報を提供しながら、健康管理に努めている。普段と異なる場合は、その都度連携を取り、早期対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院関係者及びご家族様と連絡を取りながら、ご本人様の状況把握をしている。また退院後には安心してグループホームでの生活が継続できるように情報の共有を行ない、環境整備に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様及び関係機関との連携を密にし、話し合いの場を設ける。施設でできる対応やご家族のお気持ちの確認を何度も行えるよう努めている。	「食事が摂れなくなった」など、段階ごとに入居者の状況に合わせて何回も話し合いを持ち、医師からは今後のリスク等の説明を受け、考え方の共有に努められている。看取りも実施され、家族の思いに沿えるよう職員研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを活用するとともに、勉強会など実践で訓練できる場を作り、緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成するとともに、避難訓練など実践で訓練できる場を作り、緊急時に対応できるようにしている。地域との協力体制は構築が難しい。	災害ごとの対応マニュアルが完備され、事業所の環境を踏まえて、特に火災や地震に対する避難訓練が実施されている。夜間想定訓練も行われ、避難経路や方法、場所などの確認を行い、緊急時に対応できるよう取り組まれている。	災害の発生は予測ができないと想定されることから、災害発生時の具体的な対策、例えば停電などライフラインが止まった時に何をするかなどの訓練と理解に取り組まれることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入室の際はノックやお声掛けを行ない、プライバシーに配慮している。 職員のオリエンテーション時にマニュアルを使用し、ご入居者様・ご家族様への接遇向上に取り組んでいる。	プライバシーについては「その人の嫌がることは言わない」を基本に対応され、「なあなあにならない程よい距離感」で接するよう努められている。服装選びや朝の整容なども入居者のペースを大切に自由にされるよう支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の中で、外出やレクリエーションへの参加、家事活動への取り組みなど、ご本人様の自己決定を尊重している。決定が困難な場合でもお声掛けを必ず行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご本人様のことを理解し、その方にあったケアが提供できるよう職員間で連携を図り、支援している。嗜好の時間も個別にとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみを整えるとともに、定期的に訪問理美容を招き、おしゃれを楽しめるよう支援している。ご本人の好きな服や小物を選べるような買い物も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様にできる限り、お手伝いして頂く。(食器洗い、食器拭き)またボードにメニューを記入して頂き掲示し、食事についての会話をします。又おやつ、昼食作り等の機会を作り食事を楽しんで頂ける工夫している。食事が進まない方へは食器の工夫も検討している	日常の食事は厨房で作って提供され、食事形態や好き嫌いなども相談して対応されている。職員のアイデアがメニューに活かされ、海鮮丼や豚汁を作ったり、ゼリーなどのおやつ作りも行われ、入居者もできることに参加され、楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成している。水分摂取量を把握し、摂取が少ない方には、嗜好に合わせた飲料を提供し、摂取して頂けるよう努めている。また、厨房と連携を取り状態に合わせて食事形態や内容の変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔状態を確認している。また定期的に訪問歯科を利用し、医師や衛生士からの指示を職員が共有し、口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、ご本人様の体調と排泄リズムを把握し必要時には主治医に相談しスムーズな排便への働きかけを行っている。ご本人様の羞恥心に配慮したお声掛けや対応に努めている。	トイレでの排泄を基本に、自立の入居者には早めの声掛け誘導を行い、排泄のリズムを大切に支援が行われている。プライバシーや羞恥心にも気を配り、小声での声掛けや失敗されても「安心できる声掛け」を行うよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分アップに努めながら、飲食物の工夫、腹部のマッサージ、体操のケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望をお聞きしながら、安全に配慮し、必要時にはスタッフ2名で対応する、女性介助を行うなどその方に合わせた対応を行っている。入浴拒否のある方へは声掛けの工夫をし気持ちよく入浴して頂けるよう努めている。季節の湯を取り入れながら入浴中の職員との会話も楽しんでいる	入居者のペースを優先に入っていただき、個浴で同性介助にも対応されている。入居前には入浴をしなかった方には丁寧に声をかけ、他の方の動きを見ていただき、入浴に繋げられた例もあり、気持ちよく入浴されるよう支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方や、入眠の時間などその方にあつた生活習慣の把握に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様毎に服用している薬案内を管理しており、薬の変更があった際は医師、薬剤師と連携を取りながら薬の把握に努めている。薬の変更に伴い、体調に変化があった時には医師や看護師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にその方の生活歴を把握し、趣味や嗜好品など、生活の中に活かせるようなケアの提供に努めている。必要があればご家族様に相談し協力して頂き楽しみを見つけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少ない時間でも、散歩の時間の確保に努めている。日頃より会話の中で行きたい場所や見たいもの等をお伺いし、職員間で共有している。ご家族様との外出支援が実施できるように努めていく。	行動が制限される中で、散歩などで出来るだけ外に出る機会を設け、季節の花や近所にある水車を見に行くなどの支援がなされている。また、車窓から花や景色を眺めるドライブも行われ、今後はコンビニや100円ショップでの買い物などの再開が検討されている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の意向に沿い訪問販売で買い物する機会を作り、見守りの元支払いなどもお任せしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に沿って、ご家族様やご友人の方などと電話や手紙、年賀状などのやりとりができるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱や不快の原因となる物への改善策を職員間で共有し、生活しやすく、安心できるような空間づくりを心がけている。 季節を感じられる飾りを掲示することにより、会話がはずみ心地よい環境作りに努めている。	リビングの雰囲気作りを大切に「リビングに来たい」と思える環境づくりに取り組まれている。あまり華美な装飾は行わず、季節感、生活感を大事にし、席次などにも気を配り、入居者が笑顔でゲームを楽しまれる姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まりやすい環境を作り、座席の配置にこだわらず、他者との交流ができるよう配慮している。個人の時間が必要な方には配慮を意識した声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に相談し使い慣れた家具や好みの物を持参いただく、本なども希望に合わせ用意するなどご本人様の状態に合わせた環境作りに努めている。	居室では自由に好きなことをやっていただき、入居者の動線にも気を配り、安心、安全な生活を送られている。仏壇、使い慣れた椅子などが持ち込まれ、「居室は入居者の自宅」の考えのもと、「その人らしい」生活への支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境を整え安全に、安心してできる限り自立した生活が送れるよう努めている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームケアサポートそうか瀬崎

目標達成計画

作成日: 令和 5年 7月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 災害ごとのマニュアルはあるが、災害発生時の具体的な対策への取組の理解は薄い	ライフラインが止まった時の具体的な行動を把握する	BCPマニュアルを用いて電気、ガス、水道等項目別に代替策等の研修を行う	3ヶ月
2	2	○事業所と地域との付き合い コロナ禍で以前交流のあったボランティア等との関係がなくなっている	地域のボランティアとの関係を再構築する	ボランティアを受け入れたい事の発信 以前関係のあった方々の現状を伺い相談する	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。